

各 位

株式会社安評センター

### Muta マウスに関する権利譲渡契約締結に関するお知らせ

株式会社安評センター（代表取締役社長：福永 健司、静岡県磐田市 以下、当社）は、株式会社日本医科学動物資材研究所（代表取締役社長：日柳 政彦、東京都練馬区）が保有するβガラクトシダーゼ遺伝子導入変異原性試験<sup>※1</sup>用モデルマウス（以下、Muta マウス<sup>※2</sup>）について、同社と権利譲渡契約を締結いたしましたので、お知らせいたします。

本契約により当社は、当該 Muta マウスに関する独占的使用権を取得し、当社及び当社グループを通じて非臨床試験受託サービスの提供を開始することになります。

当社は、CRO として主に医薬品、食品、食品添加物、農薬、飼料添加物、一般工業化学物質等の化学物質の安全性試験のサービスを提供しています。これらの安全性試験の一環として、その物質の発がん性の有無をできるだけ早い段階で予測することが重要です。Muta マウスは動物個体内で遺伝子傷害を評価することが可能で、動物個体の薬物動態を反映した検出系であり、標的臓器において評価できるという観点からも発がん性の予測およびメカニズムの解明に大変有意義なマウスです。

Muta マウスを用いた遺伝子突然変異試験は既に受託試験として提供していましたが、このたび当社が当該 Muta マウスの権利譲渡契約を締結したことにより、当社グループの遺伝子改変動物の繁殖技術及び設備の強力なサポートのもと、柔軟かつ安定的に当該遺伝子突然変異試験受託の提供が可能になります。

当社グループは、今後もグループ内の技術力を融合させた付加価値の高いサービスを提供するべく機動的な体制を実現いたします。

◆ご参考： ※1 変異原性試験

変異原性試験は化学物質などが生物の遺伝子に作用し、遺伝的性質を変える働き（突然変異誘発性）を検出する試験で、ヒトに対する発がんのリスクや生殖細胞に対する遺伝的障害を予測することを目的とします。一般には、遺伝毒性試験と同じ意味で用いられておりますが、最近、遺伝子突然変異検出法に限定して用いることもあります。

※2 Muta マウス

Muta マウスは 1989 年にオランダ TNO 研究所で開発され、動物一個体の全細胞に組み込まれた標的遺伝子（レポーター遺伝子）上の変異を検出することで、多臓器にわたる遺伝子傷害性を評価することが可能となりました。遺伝子突然変異試験の *in vivo* 系として利用されています。

以上